

10月セミナーを10月19日(土) 13:30~15:30に開催しました。

会場 愛知文教大学 201教室

テーマ 「学び合う体育科の学び」

授業者 小牧市立桃ヶ丘小学校 河合大地先生

コメンテーター 学び合う学び研究所フェロー 木村芳博先生

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、運動量、運動知、運動能を保障した授業の重要性です。

どの子も落ちることなく、授業に参加できていた。現状の子どもの難易度に適していた。

(会に関して)若い現職教諭も参加するような工夫がほしい。私は初参加で、偶々知り合いの先生が多かったが、それでもびびるところがあった。河合先生位の年齢では、相当恐縮したと思う。具体策なくてすみません。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、男女共修の体育はいいです。

河合先生、木村先生ありがとうございました。

男女共修体育の醍醐味、運動能力や経験の差、性差を超えた協同と探究の「連携プレイ」による、運動量だけではない総合的な学習量、それぞれの子どもの豊かな思考・判断・表現がたくさんみられました。

「スパイクプレルボール・パスあり」というアイデアはとてもおもしろく、すべての子どもの中心なおもしろさと学習量が保障され、どの子どものからだも喜んでいました。

すばらしいスパイクの身体技法を、河合先生が絶妙なタイミングで、テニス経験の子どもの技を紹介しました。その後、攻撃のバリエーションが増え、林先生がご指摘くださったように、守備や連携にまで学びが広がり、ラリーが続いたように思いました。

剣道ではスパイクのような技を「ゆける技」と言います。素人はどうしてもスピードに向かうのですが、高段者は「できる技(応じ技)」を相手とのつながりや関係性の中で「時間、空間、間を抜く身体技法」として身につけていきます。

河合先生もきっと迷ったと思うのですが、これだけすてきなクラスなので、「学びを聴き合う会」でありましたが、単元や授業の流れをさらに子どもを信じて思い切り委ねると「床の奪い合いからネット際の攻防」のネット型の本質、「攻守の連携プレイ」の人類繁栄の叡智、質の高い学びにまで到達できる可能性を感じました。

同僚性の高い桃ヶ丘小学校の先生方は河合先生に絶大な信頼を寄せ、たくさん援助要請をして、河合先生から学び、仲間と学び合っています。高い課題に日常的に向き合い、質の高い学びに挑戦なされています。

河合先生のさらなるご活躍がたのしみです。これからもたくさん学ばせてください。ありがとうございました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、体育に対し、得意だと思っている児童・苦手だと思っている児童、それぞれいるが、どの子も運動をしたいと思えるようにして、運動量を確保できる授業を行うことです。

私自身、今回の授業を近くで参観をし、勉強させていただきましたが、今回の授業を見てほかの方々がどのように思われるのかを知りたくてセミナーに参観しました。自分では気づかな

かった視点からの考えを聴くことで、授業への見方を深めることができました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、楽しく取り組める柔軟さと自由度です。

プレルボールという競技は初めて見ましたが、運動量が豊富で、作戦タイムの度に少しずつ工夫が形になっていったように思いました。最初から最後まで子ども達は飽きることなく集中し、楽しくゲームに取り組んでいたのは、ゲームの面白さに加え、様々な工夫の面白さがあったからだと思いました。

指導者にとっては、場所の生かし方や道具などの工夫、チーム構成や上達に応じてルールや難易度を変えたりすることが柔軟にできそうです。また、児童にとっては、初めての種目で得点力アップに向け個々の工夫、チームとしての工夫がいろいろできそうです。つまり、既成の種目にはない柔軟さや自由度がたくさんあるのは、誰もが楽しく取り組める重要な指導ポイントであることを学びました。先生はこれらの事を実に上手く引き出されていました。

めあてである相手のとりにくいボールは、守備から見ればどう対応するかということになりますが、この点に気付かせるのも面白かったと思います。また、体育であっても全体に考えを求めるときは、個々の発言をつなげたり、隣同士、グループ等、広げたり戻したりして教師との一対一にならないようにするのが大切であることも学びました。

今回のプレルボールのご指導から、一人一人が活躍できる球技にしたいという河合先生の願いを感じました。あえて低いネットにして、誰もが投げられるようにしたという言葉に、子どもたちにかかる願いや思いが表れているように思います。

20年以上前の教員時代、小学校1年生を担当しました。初めてボールを投げるという児童が多かったので、壁当てを取り入れました。壁にボールを投げ自分で受け取るというルールです。最初はワンバウンドでキャッチして、できたらバウンドなしでキャッチするようにしました。また、距離を少しずつ伸ばすようにしました。ボール運動が苦手な子どもたちが楽しそうにキャッチしている姿を思い出します。今ではネットの動画に同じゲームが紹介されていて驚きました。

ドッジボールをこわがる子どもたちが多かったのですが、途中からドッジボールからシュートゲームに変わり、とても良い教材だと思いました。体育の先生のご努力の成果だと思います。そして、一人一人を大事にした体育の教材作りをされている河合先生の姿をうれしく思いました。

本日のセミナーで学んだ中で重要だと思ったことは、すべての子どもが参加できることの重要性です。

プレルボールをする子どもたちは、どの子も楽しそうに参加している姿があり、改めて誰一人も落とさないことの重要性に気づきました。運動の苦手な子もボールに触れる機会が保障された球技で運動量も豊富で体育の授業としてよかったと思います。昔の子どもたちは小学1年生から6年生の子どもたちが男女を問わず一緒に遊んだものでした。プレルボールも年齢や性別を超えて一緒に楽しめる球技(遊び?)のようであり、教材のもつ力は大きいと思いました。授業者も日頃から体育の授業づくりに熱心で体育好きな子どもを育てているように感じました。

